

第 579 回 役員会(臨時) 議事概要

- 1 日 時 令和 5 年 3 月 27 日 (月) 9 時 30 分～10 時 19 分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 構成員 7 名：
牛木学長，川端理事，坂本理事，澤村理事，末吉理事，西田理事，
塚本理事
陪席者 3 名：
富田特命理事，田代監事，逸見監事

4 審議事項

(1) 令和 4 年度成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業の申請について

令和 4 年度成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業の申請について、資料 1 に基づき審議が行われ、提出までに内容の修正等が必要となった場合は、学長に一任することとし、承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・ポンチ絵について、どこまでが学内の内容で、どこからが学外の内容であるかが混在していることが多い。例えば、9 ページ目では、「社会連携推進機構」と「学部・大学院等」の全体を新潟大学という枠で囲み、新潟大学の中でも社会連携推進機構にサポートを出しながら、学外とも連携をするという見せ方ができると良いと思う。また、17 ページ目も同様に学内と学外を明確にした方が良いと思う。
- ・5 ページ目のプログラムのポイントについて、地域における重要分野である土木工学分野という記載にすると、この事業での話の繋がりがより良くなると思う。
- ・11 ページ目において、東北地方についての記載がされているが、同ページの地域別のグラフでは東北地方の中に新潟県が入っているという理解でよろしいか伺いたい。
- ・新潟県は北陸地方に含まれていると思うが、傾向としては、東北地方と同様であると思う。
- ・そうであれば、新潟県も東北地方と同様に厳しい状況であるという記載を追加した方が良いと思う。
- ・知事会や経済連合会などのように、新潟県が東北地方に入るようなケースもあるので、正確ではないかもしれないが、新潟県を含む東北地方といった記載にしても良いと思う。

(2) 「世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)」への申請について

「世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)」への申請について、資料2に基づき審議が行われ、提出までに内容の修正等が必要となった場合は、学長に一任することとし、承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・「障害」という文言について、「障がい」という表記にしても良いと思う。そうすることで、サイエンティフィックなところだけではなく、ダイバーシティまでこの学問で結びつけていくというメッセージにもなると思う。
- ・一部は「障がい」に変更していたが、すべてに反映がされていなかった。なお、「障がい」という表記のほかに、「チャレンジド」という表記を一部で使用している。
- ・今現在の日本社会において、一番受け入れられている言い方は「障がい」であると思うが、もう一つ進んだ形として「チャレンジド」と記載することで、本学はそういう目線も持っているというメッセージにもなると思う。
- ・脳血管障害の内容については、申請書上では今の内容で良いと思うが、今後ヒアリングに進む時には詳細を聞かれる部分だと思うので、もう少し考えておいた方が良いと思う。
- ・7ページ目のミッションステートメントの記載について、障害・病気・老化と共生する社会成熟の推進のゴールが新しい教科書を提案することとなっているが、教科書というものは様々な意味を持っており、人によって捉え方が異なると思う。そういう意味では、今の時代の価値観を創出するという記載にして、もう少し意味を広げておいた方が良いと思う。
- ・今回の事業では2件が採択されることになるのか伺いたい。
- ・20機関程度が申請しており、単独で申請するWPI COREが2拠点、複数のホスト機関で提案するWPIが1拠点という公募条件となっている。
- ・前回までは違い、WPI COREが新たに公募され、シャープで専門性に特化した形での申請が可能になっていると思う。